

第43回東京モーターショー2013 主催者テーマ事業

SMART MOBILITY CITY 2013

「明日のクルマ」

21世紀は、クルマのデザインが大きく変わるかもしれません。

それを可能にするのはクルマを巡る様々な先進技術です。電気自動車や燃料電池車といった新しい動力、炭素繊維複合材料などの新素材によって、自動車のデザインが大きく変わる日が来るかもしれません。内燃機関のような熱の負担が少なくなる電気自動車、燃料電池車になれば、自動車のボディは鉄などの金属ではなく、炭素繊維のような新素材を使うことができるようになります。太陽光発電ルーフ、固体水素源型燃料電池システム、レアメタルを使用しないモーターなど先進の技術を使うことにより、次世代自動車の進化は加速度的に進むでしょう。これらの新しい技術、従来にない特性を持つ新しい素材は、クルマのデザインに高い自由度を与えるでしょう。従来のフレーム構造や外観を大きく変化させ、新たな発想でのデザインを可能とすることが期待されています。

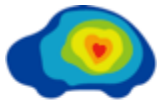
今までに見たこともないようなデザインが出現する日も近いでしょう。未来のクルマのデザインは、4輪とも2輪とも見分けのつかないものや、4足歩行のロボットが進化したものなど、さまざまなデザインが期待できます。新しいデザインのクルマが登場することで、クルマの価値や社会や生活の中での役割も変わるかもしれません。そして、クルマの価値が変われば私たちのモビリティのあり方や社会生活もさらに豊かになることでしょう。

「KURUMA NETWORKING～くらしに、社会に、つながるクルマたち～」をテーマに展開した「SMART MOBILITY CITY 2013」は、自動車メーカーにとどまらない幅広い業種から集まった出展者によるブース展示や、多彩な体験型プログラムにより、会期を通して、次世代モビリティや自動運転の最新動向などを発信し続けてまいりました。ここで紹介された技術が発展し、モビリティやコミュニケーションが活発化することで、私たちの生活がより便利で豊かなものになる。そんな未来がすぐそこまで来ています。

7回にわたりお届けしてきたSMART MOBILITY CITY 2013 NEWSLETTERは、今回が最後になります。最後までお付き合いいただきありがとうございました。次回の東京モーターショーで、またお会いしましょう。



SMART MOBILITY CITY 2013



The 43rd
TOKYO
MOTOR SHOW
2013

SMART MOBILITY CITY 2013 NEWSLETTER

COLUMN

クルマは文化である



菊池仁志

Hitoshi Kikuchi/Pietro

1946年、東京生まれ。
慶應義塾大学卒業後、大手広告代理店に勤務。1997年に独立、以後エッセイストおよび画家として活躍。文章は菊池仁志、絵はピエトロの名で知られる。絵と文で多くの雑誌に連載、「鉄は旨い！」など著書多数。軽井沢日動画廊、東京會館ギャラリーなどで個展を開催。日本で初めてダッチ・オーヴンを紹介、「鉄なべおじさん」とも呼ばれ、ジャパン・ダッチ・オーヴン・ソサエティ (www.jdos.com) の会長を務める。

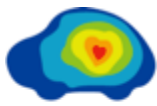
ガレージに二台の車が納まっている。フラット6のエンジンを積んだスポーツカーとV8のSUV、どちらも個性的で二十年以上乗り続けている。ただ、都内をひとりで運転するには少々大袈裟。シティーコミューターとしてもう一台、コンパクトで使い勝手の良いクルマを買うことを考えた時があった。殆ど決め掛けた頃、突然に思った、もうモノを増やすのをやめよう。

家の中にモノが溢れている。「一つ買ったら、一つ捨てる」をモットーとしている先輩のようにはいかず、いらなくなっても捨てずに後生大事にとっている。だから、家中がモノだらけ。そうした自分の生き方に疑問を感じていたこともあり、動機はどうであろうとも更に一台クルマを買うのがナンセンスに思え、止めた。

でも、大きなクルマで都内を走っているのもスマートじゃない。一台で全てを叶えてくれるクルマはないだろうか。都内を走っているときは取り回しが楽なシティー・コミューター、遠くへ行くときは沢山の荷物を積み高速道路をリラックスして移動できるSUV、峠に差し掛かれれば敏捷な屋根なしスポーツカー、海辺や山奥では何かと便利な軽トラ。一台で、それら全てを叶えてくれるクルマ。あり得ないだろうな、と思っていた時、ガチャガチャと変身しながら疾走していくトランスフォーマーの映像を目にした。これじゃないか、欲しいクルマは。

求められるサイズ、機能、デザイン、乗り心地などを満たしながら、あらゆる形態へ自由に姿を変える。勿論、そこにはメーカーのテイストが一貫して込められている。例えばレシプロエンジンならV型、ストレート、そして水平対向に拘り、その搭載位置も工夫され、独自の運転する喜びを訴え、選ぶ僕らをおおいに悩ませてくれる。一台のクルマで全てが叶う、これってかなり進歩的なエコではないでしょうか。

(菊池仁志)



The 43rd
TOKYO
MOTOR SHOW
2013

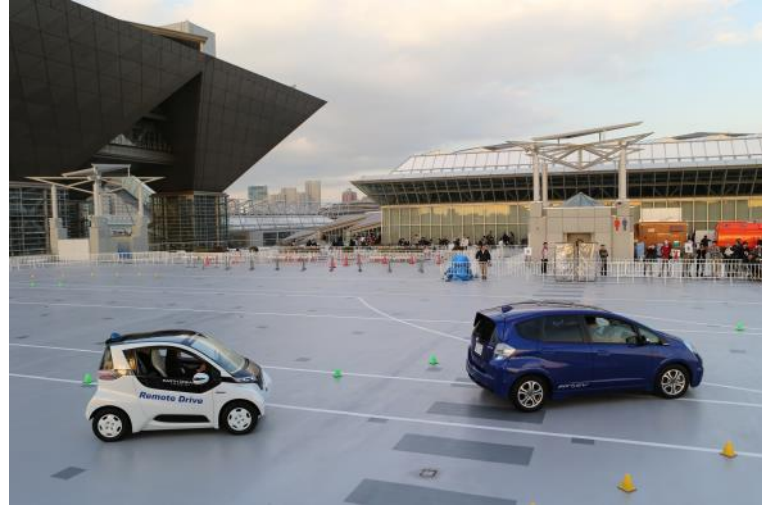
SMART MOBILITY CITY 2013 NEWSLETTER

SMART MOBILITY CITY 2013実施プログラムの様子

【SMC2013コア展示】 全景



【テストライド】 自動運転デモンストレーション



【テストライド】 パーソナルビークル



【テストライド】 パーソナルビークル



【カンファレンス】 国際シンポジウム



【カンファレンス】 国際シンポジウム

